

地域ゆかりの合気道学ぶ

城南中2年生が保健体育で

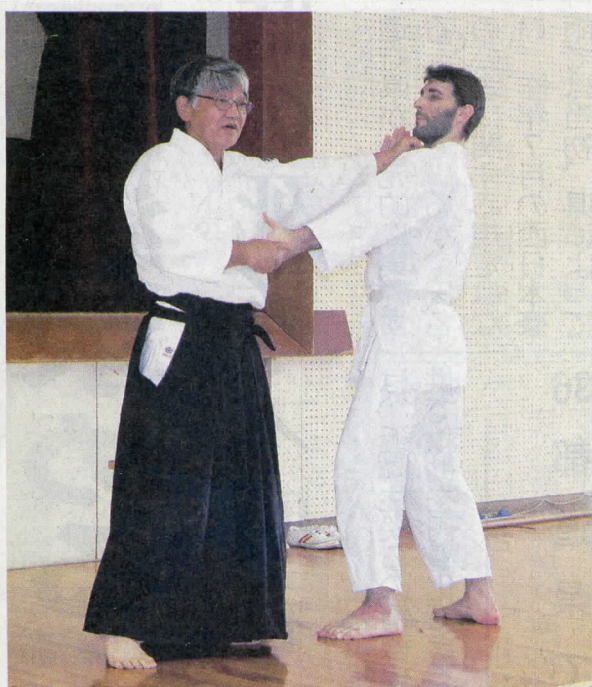
新宮市



田坂光男さんから学ぶ生徒＝8日、新宮市立城南中学校

新宮市立城南中学校（中田善夫校長）で8日、合気道の保健体育の授業があった。2年生64人は同市元鍛冶町の合気道熊野塾道場師範の田坂光男さんと、チェコ出身で同塾の門下生オンドレイ・トラウヴニーチェクさんに教わりながら正座やあいさつの仕方、簡単な技など、合気道の基礎を学んだ。

同市の中学校では昨年まで保健体育の武道の授業で剣道が行われていた。当地方にゆかりのある合気道を生徒に知ってもらおうと、教員を務めていた田坂さんの関係からモデル授業として同校で初めて実施。計5回を行い、取り組みの中で課題などを挙げて来年度以降に他の市内中学校にも



生徒を前に手本を見せた

つなげていく予定にしている。

田坂さんは合気道の創始者である植芝盛平翁（1883～1969年）の紹介や新宮での合気道の歴史、稽古方法などを説明。今後取り組みしていく技の手本を見せ、「力の伝わり方、姿勢が大事」と述べた。二人組になった生徒は合気道の基礎となる技「肩手取り」「相どり」に挑戦。「どっち？」「これで合ってる？」などと確認しながら熱心に取り組んだ。仮谷心さん（14）は「力の入れ方が難しかったです。初めて合気道をして手順が多くて奥深い

ことに驚いた。今後の授業でいろんなことを知りたい」。和平蓮君（13）は「基礎的な技だったけど、力加減が分からず難しい。授業が進むにつれて、自然と身に付けていきたい」。

田坂さんは「生徒が合

気道を知ろうという姿勢を感じました。今後の授業ではさらに難しいことも増え、集中力や姿勢、精神力が必要になる。授業を通じ、普段の生活の中で成長するきっかけになれば」と話していた。（榮本康人）

新宮市

選手権大会での健闘願い 新翔高校で硬式野球部壮行会

新宮市佐野の県立新翔高校（東啓史校長）は5日、同校体育館で「第101回全国高校野球選手権和歌山大会」に出場する硬式野球部（柴田奈緒也部長、堀木雅之監督、田中健太主将、部員13



人の壮行会を開いた。生徒が拍手で野球部を迎えた。整列した部員らを前に東校長が今年引退